平成30年度 しがはいすくーるおすすめ本50選 優秀作一覧

優秀作50編（書籍タイトル数42）
応募総数1,424編（20校）

No	書名	著者名	学校名	学年
1	君の名前で僕を呼んで	アンドレ・アシマン	国際情報高校	2
2	拝啓、十年後の君へ。	天沢　夏月	国際情報高校	1
3	阪急電車	有川　浩	守山高校	1
4	陽気なギャングが地球を回す	伊坂　幸太郎	守山高校	1
5	少女は夜を綴らない	逸木　裕	国際情報高校	1
6	シロクマのことだけは考えるな！－人生が急にオモシロくなる心理術－	植木　理恵	守山高校	2
7	試着室で思い出したら、本気の恋だと思う。	尾形　真理子	守山高校	2
8	鴨川食堂	柏井　壽	守山高校	1
9	億男	川村　元気	近江兄弟社高校	2
10	億男	川村　元気	近江兄弟社高校	2
11	世界から猫が消えたなら	川村　元気	近江兄弟社高校	2
12	世界から猫が消えたなら	川村　元気	守山高校	2
13	僕とおじいちゃんと魔法の塔	香月　日輪	MIHO美学院中等教育学校	5
14	最良の嘘の最後のひと言	河野　裕	石山高校	1
15	万引き家族	是枝　裕和	国際情報高校	1
16	万引き家族	是枝　裕和	守山高校	1
17	君が落とした青空	櫻　いいよ	守山高校	1
18	天国までの49日間	櫻井　千姫	国際情報高校	1
19	エイジ	重松　清	長浜北星高校	1
20	フランス人は10着しか服を持たない	ジェニファー・L・スコット	守山高校	2
21	君の膵臓をたべたい	住野　よる	国際情報高校	1
22	君の膵臓をたべたい	住野　よる	国際情報高校	2
23	君の膵臓をたべたい	住野　よる	日野高校	1
24	ぼくらの七日間戦争	宗田　理	国際情報高校	2
25	図書館の魔女	高田　大介	膳所高校	2
26	脳をその気にさせる錯覚の心理学　－なぜ、それを好きになるのか？－	竹内　龍人	守山高校	1
27	子ぎつねヘレンがのこしたもの	竹田津　実	水口高校	1
28	ホームレス中学生	田村　裕	守山高校	1
29	かがみの孤城	辻村　深月	国際情報高校	1
30	残像に口紅を	筒井　康隆	近江兄弟社高校	2
31	残像に口紅を	筒井　康隆	国際情報高校	1
32	学年ビリのギャルが１年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話	坪田　信貴	堅田高校	3
33	学年ビリのギャルが１年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話	坪田　信貴	水口高校	1
34	８年越しの花嫁　－キミの目が覚めたなら－	中原　尚志・中原　麻衣	MIHO美学院中等教育学校	5
35	あの頃、きみと陽だまりで	夏雪　なつめ	彦根翔西館高校	1
36	最後の医者は桜を見上げて君を想う	二宮　敦人	東大津高校	2
37	最後の医者は桜を見上げて君を想う	二宮　敦人	守山高校	1
38	この闇と光	服部　まゆみ	守山高校	1
39	ワンダー	R. J. パラシオ	MIHO美学院中等教育学校	4
40	素敵な日本人	東野　圭吾	甲西高校	1
41	ナミヤ雑貨店の奇蹟	東野　圭吾	東大津高校	1
42	人魚の眠る家	東野　圭吾	守山高校	2
43	フォルトゥナの瞳	百田　尚樹	守山高校	2
44	私とは何か －「個人」から「分人」へ－	平野　啓一郎	守山高校	1
45	川の深さは	福井　晴敏	国際情報高校	1
46	三日間の幸福	三秋　縋	堅田高校	3
47	告白	湊　かなえ	守山高校	3
48	豆の上で眠る	湊　かなえ	国際情報高校	1
49	スイッチを押すとき	山田　悠介	国際情報高校	1
50	置かれた場所で咲きなさい	渡辺　和子	近江兄弟社高校	2

平成 30 年度
「しがはいすくーるおすすめ本　50 選」優秀作品

（氏名の有無は本人の希望です）
（著者名は 50 音順に並んでいます）

『君の名前で僕を呼んで』　　アンドレ・アシマン　著　　オークラ出版

私がこの本を読もうと思ったきっかけは、あるインスタグラマーが紹介をしていて、表紙が素敵だなと思ったからです。この本は、十七歳の少年エリオと博士課程の学生オリヴァーとの情感や情熱がとても溢れる恋模様の話です。この二人は男性です。今、ＬＧＢＴについてよくニュースを見ます。この二人の男性が恋に落ち合うという事は珍しいがおかしいことではありません。この本を通して、改めてＬＧＢＴを深く考えられると思います。

（国際情報高校　２年生）

『拝啓、十年後の君へ。』　　天沢　夏月　著　　ＫＡＤＯＫＡＷＡ／メディアワークス文庫

「タイムカプセルによって繋がる迷える高校生６人の青春物語」というキャッチコピーの小説です。章ごとに主人公が変わり、その主人公がタイムカプセルによって少しずつ自分の運命を動かし前に向かってがんばっていきます。「君がやろうとしたことを、君自身が笑ってやるなよ」というような人を勇気づける素敵な言葉がたくさんでてくるので、自分自身が同じような悩みをもったとき覚えておきたいと思える本です。

（国際情報高校１年　長谷　純奈さん）

『阪急電車』　　有川　浩　著　　幻冬舎

私がおすすめする本は有川浩さんの『阪急電車』です。電車に乗っているとスマホを見たり音楽を聞いたりして１人の時間を過ごしてしまいがちです。しかし同じ電車にいる人を観察してみると、意外な発見があることもあります。たった数分の移動時間の中の出会いがつくる物語。まるで自分もその電車に乗りあわせているような感覚で読むことができます。日々の出会いを大切にしたくなる物語の世界へ、ぜひ乗車してみて下さい。

（守山高校　１年生）

『陽気なギャングが地球を回す』　　伊坂　幸太郎　著　　祥伝社

演説の天才、嘘を見抜く名人、スリの達人、精密な体内時計を持つ女。この四人の天才たちは銀行強盗だった……しかし、逃走中に同じく逃走中の別の強盗にお金を横取りされてしまう。

愉快で陽気で個性的なこの四人が繰り広げる爽快なお話が、コミカルに生き生きと書かれています。ハイテンポで進むお話が本当におもしろいので、ぜひ読んでみて下さい。

（守山高校　１年生）

『少女は夜を綴らない』　逸木　裕　著　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ

中学３年生の主人公、理子には誰にも言えない秘密がありました。しかし、秘密を抱え怯えながら学校生活を送っていた理子の前に、秘密を知っているという中学１年生の悠人が現れたのです。悠人は、秘密をバラされたくなかったら父親を殺害する計画を手伝ってほしいと、理子を脅します。理子は、行動が読めない悠人に戸惑いながらも、心惹かれていきます。奇妙なのに、読み終えると心が温かくなっているような青春ミステリ作品です。

（国際情報高校１年　松村　和佳奈さん）

『シロクマのことだけは考えるな！－人生が急にオモシロくなる心理術－』

植木　理恵　著　新潮文庫

忘れたいと思うほどによみがえる思い出、なぜ次男次女は世渡り上手なの？フシギちゃんはどうして人気者なのかなど、日常で起こっている、いわれてみれば確かにそうだと思うことを心理学的に分析し、ベストな対処法を教えてくれます。人間関係がうまくいっていなかったり、最近何もいいことがないと気分が沈み気味な人にこそすすめたい、小さな幸せと少しの元気を与えてくれる本です。

（守山高校　２年生）

『試着室で思い出したら、本気の恋だと思う。』　尾形　真理子　著　幻冬舎

この作品は、ある服屋さんに来る４人の女性がそれぞれ恋の悩みを抱えていて、お気に入りの服を見つけ試着をしたとき、自分の思いに気づかされる物語です。かわいい服を見つけ、着たときに一番最初に見せたい人が好きな人である、という考えにとてもひかれました。私もいつか思わず試着室で思い出してしまうような本気の恋をしてみたいと思いました。

（守山高校　２年生）

『鴨川食堂』　柏井　壽　著　小学館

あなたにとって忘れられない味はどんな味ですか。この本はそんな大事な思い出と共に記憶に残る料理をそっくり思い出のまま再現してくれる食堂の話です。新しい友達ができたり、ケンカしたり。どんな時も傍に食べ物の姿があります。過去には戻れなくても、一口食べると何度でも思い出させてくれます。私の一番の思い出って何だろう。そんなことを考えさせてくれる、読むとほっこりする一冊です。

（守山高校１年　大馬　蒼生さん）

『億男』　川村　元気　著　文春文庫

大金を手に入れた人は必ず幸せになれるのだろうか。宝くじで三億円を手にした一男は、大金持ちの親友である九十九の家に行く。しかし、九十九に一男の三億円は持ち逃げられてしまう。一男は三億円を取り戻すため、波乱万丈の三十日間を過ごすこととなる。はたして一男は三億円を取り戻し、お金と幸せの答えを見つけられるのだろうか。偉人の名言、お金にまつわる知識、最後には感動ありの一冊だ。ぜひこの感動を味わって頂きたい。

（近江兄弟社高校２年　佐藤　里桜さん）

もし、３億円が手にはいったら…と考えることはだれしもあるかと思います。この本は、3 千万円の借金をしている男が、宝くじを当て、一瞬で借金男から億男になる物語です。しかし、億男になったとはいえ、必ず幸せになるとは限りません。はたして、主人公は幸せを手にすることができるのでしょうか。

この本を読んで、僕は、お金とは何かということを考えるようになりました。

（近江兄弟社高校　２年生）

『世界から猫が消えたなら』　　川村　元気　著　　小学館

郵便配達員として働く僕は突然、余命わずかだと宣告された。そんな僕の前に自分そっくりの悪魔が現れた。「この世界から何かを消す。その代わりに、あなたは一日の命を得ることができる。」僕は生きるために電話、映画、時計などこの世からあらゆるモノを消していった。「世界から猫が消えたなら」「世界から僕が消えたなら」この物語は身近な死について考えさせられる本だ。あなたならこの世界から何を消す？

（近江兄弟社高校　２年生）

「何かを得るためには、何かを失わなければならない。」この本では余命宣告を受けた僕が突然現れた悪魔、アロハに１日の命の代わりにこの世界から何かを消すことを提案されます。生きるために消すことを決めた僕。世界からモノが消えていく。「人は失ってから、それがいかに大切なものか分かる。」でも失ってからではもう遅い。失ってから後悔しないように失う前から大切にしよう。そんなことを改めて気づかせてくれる本です。

（守山高校　２年生）

『僕とおじいちゃんと魔法の塔』　　香月　日輪　著　　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ／角川文庫

主人公の龍神は、親の言うとおりに「いい子」に生き、平和に過ごしていたが、何かモヤモヤするものを感じていた。そんなとき、龍神はサイクリングの途中で不思議な黒い塔にたどりつく。なんとそこには、死んだはずのおじいちゃんが住んでいた。自由奔放なおじいちゃんやそこに住む生き物たちとの不思議な出会いが、龍神の世界を広げていく。自分とは何か、善とは何か迷ったときに読んでほしいい一冊です。

（ＭＩＨＯ美学院中等教育学校　５年生）

『最良の嘘の最後のひと言』　　河野　裕　著　　東京創元社

月給５００万円、年収８０００万。採用条件はただ一つ。「超能力者であること」世界的な大企業「ハルウィン」が出した告知は、なんと「超能力者をひとり採用する」というものだった。最終試験に進んだ７人の超能力者（？）達はそれぞれ目的を達成するため、採用通知を奪い合う！能力を駆使しながら行われる騙し合いの中、最も不利な市倉は…。彼らの嘘にきっとあなたも騙される。「最良の嘘」が味わえる一冊！

（石山高校１年　安井　夢乃さん）

『万引き家族』　　是枝　裕和　著　　宝島社

まず本の帯の「盗んだのは絆でした」という文に興味を惹かれたのがこの本を読むきっかけになりました。タイトルは「万引き家族」で悪いイメージが思い浮かぶかもしれませんが、中身は考えさせられる話で、読めば読むほどその内容に吸い込まれそうな話でした。特殊な方法で万引きをするシーンがあるのですが、決して犯罪を許すような結果になっていないし、そうせざるを得ない人たちがいるということをこの本は伝えてくれます。

（国際情報高校　１年生）

「万引き」を仕事とする５人家族の柴田家ではいつも通り父の治と息子の祥太が仕事を終えて、家に帰ろうとしていた。しかし、帰宅途中に１人の女の子りんに出会った。親から虐待を受けていた、りんとの６人での生活が始まる。それぞれが複雑な事情をもっている６人の楽しく強い絆で結ばれた日々が繊細に描かれた一冊。そして、この本を読んだあなたは予想を覆すラストに涙するだろう。

（守山高校１年　山田　朋佳さん）

『君が落とした青空』　　櫻　いいよ　著　　スターツ出版

今日を不機嫌に過ごしていた主人公の実結。付き合って２年を迎える彼氏の修弥と放課後デートをするが、修弥が交通事故に遭ってしまう。気がつくと昨日と同じ一日が始まっていた。「今日は毎回、必ず終わりを迎える」がその中で実結の心境に変化が。「新しい明日には、修弥はもう、いないかもしれない」と思わされる実結。今日もまた修弥は交通事故でいつものように倒れている。「それでも、私は笑い続けたい。」と心に誓う。

（守山高校１年　宮武　のぞみさん）

『天国までの 49 日間』　　櫻井　千姫　著　　スターツ出版

主人公の安音がいじめに苦しみ自殺をしてしまう。そして、死んだ後四十九日間魂だけで現実世界に戻れると天使に言われる。生きていた頃の友人洋人は霊感が強く、安音のことが見えた。そこで二人は一緒に過ごし、遊んだり、話したりした。二人で過ごすうちにだんだん死んだことを後悔するようになり、最終的に恐怖におそわれる。二人の絆がつないだ様々な出来事一つ一つが考えさせられること。いつのまにか涙してしまう作品です。

（国際情報高校　１年生）

『エイジ』　　重松　清　著　　新潮文庫

この本は私と同じ年代の中学生エイジが自分の住む町で起きた連続通り魔事件の犯人がクラスメイトだったことをきっかけに、家族や友だち、好きになった女の子へのそれぞれの思いに揺れながら成長していく物語で、14 歳というナイーブでキレやすく時限爆弾のような心情が描かれていて、変わっていくことの大切さと変わらないことの尊さを考えることのできる青く若い今を生きる自分達にぴったりな本だと思った。

（長浜北星高校　１年生）

『フランス人は 10 着しか服を持たない』　　ジェニファー・Ｌ・スコット　著　　大和書房

「１人のときこそ美しく振る舞う」、「沈黙を楽しむ」、「ほめられても謙遜しない」－１度きりの人生、限られた時間の中でどうやって「楽しく」暮らせるだろう？この本は、誰もが憧れる国、フランスで実践されている日々の「暮らしの質を高める」ちょっとした習慣について書かれている。普段の生活で気軽にできるものばかりなので、毎日が同じ日々の繰り返しだと思っている人はぜひ読んで下さい。明日が来るのが楽しくなるはず。

（守山高校２年　河合　ひかるさん）

『君の膵臓をたべたい』　　住野よる　著　　双葉社

私はこの本を読み生きることの大切さを知ることができました。主人公の山内桜良さんは膵臓の病気であと余命一年にもかかわらず、元気で明るく生きていく姿に私はとても心をうたれました。私もどんなにつらいときであったとしても明るく元気に毎日を過ごしたいと思います。そしてそんな桜良があこがれる人が同じクラスの本と毎日向き合うたくましい僕でした。僕が桜良の残り少ない人生を支え最後の物語を作っていく感動の物語でした。

（国際情報高校　１年生）

クラスで人気者の彼女とクラスで影のうすい僕。まるで光と影のような２人。でも、彼女の書いた共病文庫を拾って、彼女の秘密を僕は知ってしまった。彼女は膵臓の病気で余命があと少しみたいだ。その秘密を知ってしまった事をきっかけに、彼女の死ぬまでにやりたい事を一緒にするはめになった。いつも笑顔で、死を恐れていないような彼女。でも共病文庫には、彼女の本心が書かれていた。生きる事とは幸せとは何かを考えさせられる物語。

（国際情報高校２年　甲斐　凪砂さん）

主人公の男の子が病院でひろった本は、クラス一人気者の山内桜良の「共病文庫」というタイトルの本だった。その本の中身を知った事から山内桜良に僕はつきまとわれるようになる。それは中身に書いてあった、山内桜良が膵臓の病気にかかっている事を口どめする為ではなく、僕に興味があったから。「山内桜良が死ぬまでしたいこと」を人助けとして手伝う事になった僕が山内桜良から沢山の考えを教えられる感動物語です。

（日野高校　１年生）

『ぼくらの七日間戦争』　　宗田　理　著　　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ/角川文庫

このお話は明日から夏休みというある日のこと、主人公達が行方不明になるところから始まります。誘拐か？事故か？と思っていたら主人公達は校則で抑圧する教師や勉強を押しつける親に対し反抗するため解放区という廃工場に立てこもり、大人たちへの反逆をするという話です。子どもなら誰でも思うような大人への不満をストレートにぶつけてくれて読んでいてとてもスカッとします。みなさんもこの本を読んでスカッとしてみて下さい。

（国際情報高校　２年生）

『図書館の魔女』　　高田　大介　著　　講談社

山育ちの少年キリヒトは、一ノ谷の図書館の魔女マツリカに仕えることになる。人々に恐れられる彼女は、まだうら若き少女だった。声を出せない彼女は手話によって雄弁に言葉を紡ぎ、類い稀なる頭脳を駆使して一ノ谷の危機に立ち向かう。言葉とは何か、図書館とは何かなど、考えさせられること間違いなし。剣も魔法も出てこない、扱うのは“言葉”だけ。独特の世界観と魅力的な登場人物にも目が離せない、超弩級異世界ファンタジー。

（膳所高校　２年生）

『なぜ、それを好きになるのか？　脳をその気にさせる錯覚の心理学』

竹内　龍人　著　　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ／角川新書

あの人が好き。あの色が好き。誰しも好きな何かがあると思います。しかし、「なぜ私たちは何かを好きになるのか」を考えたことはあるでしょうか。この本では「実験心理学」から好きという事についてせまっています。この本を読んで「好きという感情を芽生えさせる脳のメカニクス」が分かれば、それを対人関係、勉強などにも応用できます。そして、それがあなたの人生にとってプラスになることは間違いありません。

（守山高校１年　中野　翔貴さん）

『子ぎつねヘレンがのこしたもの』　　竹田津　実　著　　偕成社

この本は、普段接することがなかなか無い野生の動物との心温まる交流を描いた作品です。野生の動物とは小さなきつねヘレンのことです。ヘレンは、頭の怪我で視覚、嗅覚、聴覚を失なっていました。そんなヘレンを救おうとする少年や、少年によって心が変化していく周りの人達に少しウルッとさせられます。ヘレンが一生懸命生きようとすることによって、命の重さ、愛の深さなど、沢山考えることができます。ぜひ読んでほしいです。

（水口高校　１年生）

『ホームレス中学生』　　田村　裕　著　　幻冬舎

この本は芸人である麒麟の田村裕さんが中学生の時のホームレス生活を中心とした実体験の話です。中学２年生のある日突然、自宅のマンションは差し押さえになり、父親には「解散！」と宣言され、ホームレス状態に。そこからどんな生活を送ったのか。普段何不自由ない生活を送っているありがたさや周りの人への感謝の気持ちなど、この本を読んでもう一度、小さなことでも感謝する気持ちが大切だと気づかされる本です。

（守山高校１年　平井　花果さん）

『かがみの孤城』　　辻村　深月　著　　ポプラ社

主人公の安西こころは、学校に行けない。五月のある日部屋にある鏡が虹色に光り、その先には大きなお城と狼の仮面を付けた少女、そして主人公と同じ学校に行けない子たち６人がいた。このお城で彼女たちはなんでも願いの叶う部屋のかぎを探すことに。読み進める度にわかっていく。自分たちがここに集められた理由が。何度読んでも感動する話が全てわかってからも楽しめる本です。

（国際情報高校１年　黒木　紗弥さん）

『残像に口紅を』　　筒井　康隆　著　　中央公論社

この物語の特徴は章が進むに連れて五十音の音が消えていく所だ。そして、消えた音を含んだものはこの世から消滅する。それは食べ物や動物だけでなく、人間もだ。物語が進むに連れて使えない言葉が増えていき、文章が不自由になっていく。それでも、読者に違和感を感じさせない作者の技術や語彙力に圧倒される。日本語の素晴らしさを感じる小説だ。言葉がほとんど消えたラストのスピード感は圧巻なので、ぜひ読んでもらいたい。

（近江兄弟社高校　２年生）

この物語では五十音の日本語が徐々に小説の文面から消え、それと同時にその音が含まれているものや概念も消えていきます。つまり、物語側では、五十音やそれを含むものなどが消えていき、読み手側では、文面から徐々に五十音が消えていくのです。今までの小説では味わえない設定と、五十音が消えていく中での筒井康隆さんの語彙力の豊富さがとても素晴らしく、さいごまで目が離せない作品でした。日々使う言葉の大切さを学べます。

（国際情報高校１年　園田　萌絵さん）

『学年ビリのギャルが１年で偏差値を 40 上げて慶應大学に現役合格した話　[文庫特別版]』

坪田　信貴　著　　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ/角川文庫

この本は、学年でビリのギャルが１年で偏差値を 40 上げて慶應大学に現役合格した話。高校時代は悪いことばかりして校長先生に「人間のクズ」と呼ばれるほどだったさやかが塾で坪田先生と出会い、初めは勢いで慶應大学を目指す。そのことを父親や先生にバカにされいよいよ本気で勉強しはじめた。その結果さやかは慶應大学に合格。「ビリギャル」は夢のようなことでも努力すれば必ず叶うことを教えてくれる。是非読んでください。

（堅田高校　３年生）

学年ビリのギャルさやかちゃんが慶應大学を目指すために塾に通います。そこで出会う坪田先生との授業を受け、さやかちゃんの人生が変わっていきます。坪田先生の「ダメな人間などいない」という言葉に私も救われました。勉強の大切さ、家族の大切さ、友達の大切さ、自分自身の大切さ、たくさんのことを伝えてくれる１冊でした。笑いあり涙ありの本当に素敵なお話です。

（水口高校　１年生）

『８年越しの花嫁　―キミの目が覚めたなら―』　中原　尚志、中原　麻衣　著　主婦の友社

結婚まであと三ヶ月。幸せな夫婦に落とされた黒い影―。原因不明の病が妻に襲いかかった。心肺停止でいつ目覚めるか分からない妻を信じて待ち続け、毎日動画を撮り続けた夫。目覚めてからも、自分のことを覚えていない妻を側で支え続けた。そして８年ごしの結婚。いろいろな障害を乗り越えて幸せを手に入れた。家族の愛。夫婦の愛。信じることの大切さ。人との関わり。人の温かさ。生きていく上で大切なことを教えてくれる一冊です。

（ＭＩＨＯ美学院中等教育学校　５年生）

『あの頃、きみと陽だまりで』　夏雪　なつめ　著　スターツ出版

不登校で生きる意味をなくした少女が、ある事故をきかっけに出会った大学生と一週間を共にし、生きることの意味を見つけていきます。この設定は現実ではあり得ないかもしれませんが、少女の悩みなどは若い人達にはとても共感できる部分があると思います。大学生が言った「学校へ行けるのが普通で当たり前なんて誰が決めたの？」という言葉は心によく残りました。とても切なく、温かい気持ちになる本でした。

（彦根翔西館高校１年　後藤　未夕さん）

『最後の医者は桜を見上げて君を想う』　二宮　敦人　著　TO ブックス

この本の悩ましいところは、正反対の信念を持つ二人の医者がどちらも正しいことを言っているように見えるところだ。諦めず最後まで病気と闘うか、残された時間を大切に使うか…。「命を大切に」なんて簡単な言葉じゃ終われない。こんな幸せの形もあっていいんだ、そう思わせてくれる、優しい物語です。

（東大津高校２年　中道　菜月さん）

もしも、突然、親や友達、ペットなどの、そばにいることがあたりまえとなっていた存在が、生死をさまよう事態になったらどうしますか。延命治療を勧めますか。それとも、勧めませんか。命の儚さを目の前にするからこそ、悩み苦しむ。そんな患者やその家族の葛藤、そして考え方が真逆な２人の医者を描いた作品です。患者たちは、どちらの医者の考えに納得し、死を迎えるのか。とても考えさせられ、引き込まれる、感動する小説です。

（守山高校１年　高橋　郁花さん）

『この闇と光』　服部　まゆみ　著　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ/角川文庫

美しいドレスと豪華な食事、優しい父親が語ってくれる物語の数々……。盲目の王女レイアの生活は、何一つ不自由ないおだやかなものだった。しかし、王国で起こった暴動をきっかけに、彼女は全てを失ってしまう。謎の集団に拉致された彼女に知らされる本当の世界とは？

今まで信じていた全てが覆される衝撃。最後に迎える驚きの結末に、「レイア」は何を思うのか。

（守山高校　１年生）

『ワンダー』　　Ｒ．Ｊ．パラシオ　作　　ほるぷ出版

顔に重度障害を持つオーガストは今まで学校に行けていなかったけれど、十歳で初めて行くことになる。顔の治療の跡が原因でいじめられるが、両親と姉の愛、また得意の理科で周囲の愛、尊敬を得て友達ができていく。しかし親友であるジャックの言った事が原因でオーガストが傷つき学校に行けなくなってしまう。二人は仲直りができるのでしょうか？オーガストと家族の忘れられない出来事がどんどんできるワンダーな心の旅の物語です。

（ＭＩＨＯ美学院中等教育学校４年　黄　紀茹さん）

『素敵な日本人』　　東野　圭吾　著　　光文社

一人でも心温まる雛祭り、死の香りがする乾杯、家に伝わる不思議な水晶、どれも日常の近くにあると思えばあり、ないと思えばない、曖昧で不確かなそれらの物語。けれど確かなことが一つ。それはどれも優雅で、人間味にあふれているということ。

この本はそんな温かで、けれど冷たい、等身大の人間を、優美に描いた一冊。これを読めば少しだけ、未来や過去に向ける眼差しの彩りが増すかもしれない。

（甲西高校１年　鮫島　圭吾さん）

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』　　東野　圭吾　著　　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ／角川文庫

悩みを解決してくれると噂のナミヤ雑貨店を舞台に様々な人たちの想いや悩みが織り成す奇蹟のストーリー。読み終えた後パズルのピースが全てはまったような爽快感と同時に胸の奥がジワッとあたたかくなるような感覚を覚えることでしょう。とても読みやすい作品なので、ぜひ読んでみてください。

（東大津高校　１年生）

『人魚の眠る家』　　東野　圭吾　著　　幻冬舎

これは決して起きることのない少女の生と死についてのお話。静かに寝息をたてる彼女には、脳波がない。つまりは脳死で法律上死んでいる。しかし彼女は人工呼吸器なしで息をし、手足を動かし笑う。娘の死を受け入れられない狂気と化した母親は周囲も驚愕の方法で娘を動かし続ける。また少女の従妹は大人たちの残酷な対応に苦しめられ、彼女自身も誰にも言えない秘密を抱える。仕事人間である父親の心境の動きにも目が離せない。

（守山高校　２年生）

『フォルトゥナの瞳』　　百田　尚樹　著　　新潮文庫

“死を前にした人が透けて見える”というフォルトゥナの瞳を持った主人公の慎一郎。始め、その能力に惑わされるも、この能力を生かし、人の命を救おうとする。しかし人の命を助けると自分の命が削られることに気付き助けたくても助けられない現実と葛藤する。そんな中、慎一郎は葵という女性に会い心惹かれるが葵も透け始め…。自分の命か、他人の命か、慎一郎の下した決断とは。

（守山高校　２年生）

『私とは何か　―「個人」から「分人」へ―　』　　平野　啓一郎　著　　講談社

私たちは、場の状況、関係性によって、様々な「仮面をかぶり、キャラを演じ」ている。だが、その元には「ただ一つの本当の自分」があると考えている。しかし、場の状況によって使い分けている「キャラ」は、「個人」をさらに分けた「分人」であり、それはすべて「本当の自分」であるのだ。「本当の自分」を見つけることが必要になった現在、「分人」という新たな人間の単位を使うことで、世界の見え方が変わってくるだろう。

（守山高校１年　田中　陽一朗さん）

『川の深さは』　　福井　晴敏　著　　講談社

『川の深さは』は、福井晴敏さんの初めての作品です。葵と名乗る少女と、少女を守ることを自らの任務とする傷だらけの少年、増村と彼らをかくまった警備員、桃山との出会いから始まる推理パート、少年に任務を与えたのは誰なのか。少年のかつて所属していた機関、治安情報局とは何なのか。答えに近づくごとに激しさを増すアクションシーン、少年は任務を果たすことができたのか。リアルな描写と感動、この二つを兼ねた作品です。

（国際情報高校　１年生）

『三日間の幸福』　　三秋　縋　著　　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ／メディアワークス文庫

もし、自分の寿命を売れるとしたらそれはいくらになるだろうか。もし、あと３ヵ月しか生きられないとしたら何をするだろうか。この話の主人公は幼い頃思い描いていた人生とは違っている現実に落胆し、残り３ヶ月だけを残して自分の命を売ってしまう。寿命の最期を見届けるために派遣された監視員ミヤギと出会い、彼の残りの人生が動き始める。最後はおどろきと同時にどこか心があたたまる物語です。

（堅田高校　３年生）

『告白』　　湊　かなえ　著　　双葉社

この本が作者のデビュー作と聞いたとき、衝撃はとても大きいでしょう。この作者はこの作品を書くまでにどれほどの人間を見て、普段私たちが目をそらしている自分や他人の本質をここまでリアルに書き上げたのでしょうか。子供を生徒に殺された教師、犯人の２人の男子中学生、その周りの人たち。日常の中では決して見せない悪意、ちっぽけなくせに高いプライド、殺意、それらを全て読み通した時にこの本の題名の意味が分かります。

（守山高校３年　山田　和佳奈さん）

『豆の上で眠る』　　湊　かなえ　著　　新潮文庫

この本は、ある家族の姉妹を中心に描かれており、その家族に起こる事件をきっかけに姉妹の秘密が明かされていく物語です。犯人が誰かを考えたり、次に狙われている人物は誰かなどを推測しドキドキしながら本を読むことができます。全て読み終わって分かる最後の「本ものって、何ですか」というセリフに込められた物語の切なさ、重みを感じるとともに、家族という存在の大切さを考えなおすきっかけとなってほしいです。

（国際情報高校　１年生）

『スイッチを押すとき』　　山田　悠介著　　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ／角川文庫

この本の作者である山田悠介さんは、普段私たちが生きている現実社会では絶対にあり得ないストーリーから本を通して強く訴えるような作品を数多く書かれています。私が今回おすすめする『スイッチを押すとき』は、自殺するためのスイッチを子どもに持たせ監禁実験させるという話です。想像もできない程の極限状態と生きようとする子供をリアルに描くことで、今の私たちがどれだけ平和なのか深く考えさせられる作品です。

（国際情報高校　１年生）

『置かれた場所で咲きなさい』　　渡辺　和子　著　　幻冬舎

「置かれた場所で咲きなさい。」この言葉は作者がある宣教師から手渡された英詩の一部です。その詩を通して、置かれたところこそが今の居場所であり、咲くということは、そこで笑顔で生きて周囲の人々も幸せにすること、咲けない時は、根を下へ下へとおろせば良いと告げられたということです。作者は、自らの体験をふまえ、キリスト教精神に基づき、四十のメッセージを読者の心に語りかけてくれています。読むと心が和らぐ本です。

（近江兄弟社高校　２年生）